

# まなびいず in 遊楽校

## ～家庭学習の習慣を身につけよう～

### ■ 事業のねらい

集団宿泊体験を通じて、基本的な生活習慣の必要性に気付かせるとともに、わかる体験や成功体験から学習への自信を持たせ、家庭学習の大切さについて気付かせるなど、学習習慣の定着や、学習に対する興味関心を高めさせる。



- 実施日 平成23年7月16日(土)～7月18日(月) 2泊3日
- 参加対象 小学4年生～小学6年生 20名
- 参加実績 参加者：26名  
小4=10名、小5=8名、小6=8名  
男子=16名、女子=10名  
運営協力者：北海道教育大学旭川校学生等 4名
- 備考 活動場所：青年の家

### 1 事業実施の背景

子どもの基本的な生活習慣の乱れが、学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとして指摘されて久しい。平成19年度から実施されている全国学力・学習状況調査においては、北海道の小学生の国語・算数の平均正答率は全国平均を下回るなど、継続する課題となっており、学力向上の取組が求められている。

このような状況から、本事業は、確かな学力や、それらの基盤となる基本的な生活習慣の確立及び生活リズムの向上を図ることをねらいとして実施するものである。

### 2 プログラムデザイン

受付 7月16日(土) 13:00

解散 7月18日(月) 12:00 ※印は荒天時プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
16 土								受付	アイス ブレイク	家庭学習の すすめ (ワークショップ)	やる気アップ タイム (自学自習)	夕自 食由	楽しく理科実験	自由時間 入浴			就寝
17 日	起床	さわやかタイム(晝)	朝食	清掃	やる気アップ タイム (自学自習)	火おこしごはん づくり名人			イルムの里たんけん隊 (ウォークラリー) ※室内ウォークラリー、 フロアカーリング	やる気アップ タイム (自学自習)	夕自 食由	めざせ リサイクル博士	自由時間 入浴				就寝
18 月	起床	さわやかタイム(晝)	朝食	清掃	やる気アップ タイム (自学自習)		閉会式										

### ■ アクティビティについて

### ■ 意図

- 家庭学習の大切さに気付かせながら3日間のやる気アップタイム(学習時間)の計画を無理なく立てさせ、学習習慣の定着を図る。
- 自ら学ぶ楽しさを実感し、学習をした充実感や達成感を味わわせる。

### ■ 留意事項

- 野外での体験活動では、安全の確保のための事前踏査、準備に努める。
- やる気アップタイム等の屋内活動については、職員並びに運営協力者が共通理解のもと、参加者の自主的活動を促すための声かけ、支援を行った。

### 3 活動の様子



#### ■ 当日の様子

1日目は、まず3日間の活動を円滑に進めるためにアイスブレイクを行った。その後は、これまでの自分たちの家庭学習の方法や家庭学習の大切さなどについて、ワークショップ形式で意見交換を行った。夜は、講師を招き、「楽しく理科実験」を行い、紙トンボ作りや様々な実験等とおして、科学に対する関心を高めることができた。

2日目は、使用済みのアルミ缶を七輪と飯ごう代わりに、紙パックを燃料にして、ご飯を炊いた。紙パックの燃焼を持続させるのが難しいようだったが、直火で炊いたお米は、ふっくらして甘みもあり、どの参加者も満足いく活動となった。

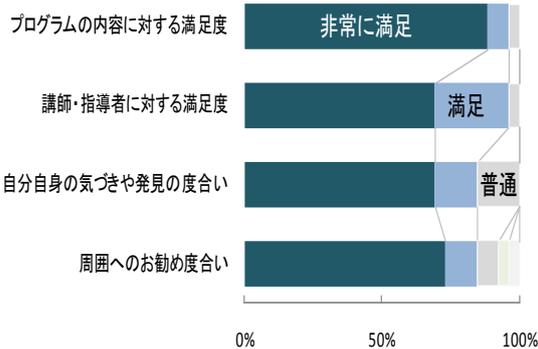
午後からは、荒天のため「イルムの里たんけん隊（ウォークラリー）」に代わって、「室内ウォークラリー」、「フロアカーリング」を行った。共に仲間と協力し、助け合うことが必要な活動であり、さらにグループ内の信頼関係が深まった。夜は、こちらも参加者が持参した使用済みの紙パック等の廃材を利用しての工作教室を行い、リサイクルクイズでリサイクルについて学びながら、「万華鏡」や「フリスビー」を制作した。

3日目は、絵日記で3日間の活動を振り返った。また、帰宅後の家庭学習の取り組み方や計画の立て方等について、初日同様にワークショップ形式で意見交換を行い、帰宅後の家庭学習に向けての意識付けを行った。

3日間を通して、早朝の「さわやかタイム」、午前、夕方の「やる気アップタイム」を合わせると5時間の学習時間を設定し、朝読書や各自で持参した学習道具やプリント「まなぼう」を使い、自主学習を行った。職員、運営協力者は適宜、支援、励ましの声かけを行った。

#### ■ 参加者の声 ※満足度については、左表のとおり。

- 家庭学習の仕方がわかった。(小4)
- やる気アップタイム(学習時間)では、やる気が強まった。(小6)
- ボランティアの学生さんがやさしく教えてくれた。(小5)
- 朝に勉強すると集中できた。(小5)
- 今度はもう少し長く宿泊し、勉強したい。(小6)



### 4 事業評価



#### ■ 評価方法・重点

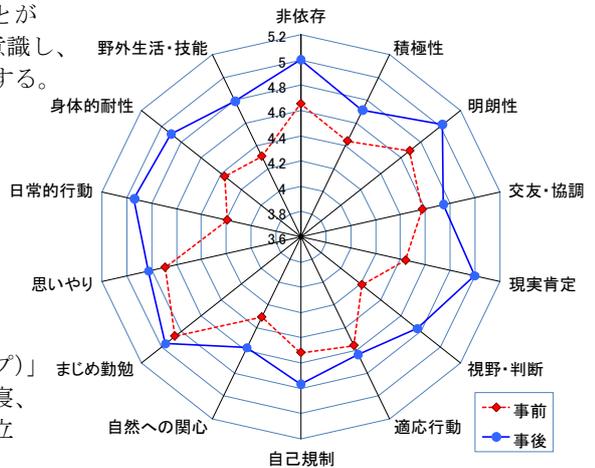
事業に取り組む参加者の様子とアンケートによる評価(記述を含む)により、学習計画を立てて、見通しを持って学習することができたか、規則正しい生活の重要性を意識し、生活することができたかについて評価する。

#### ■ 参加者の変容【IKR調査結果】

「日常的行動(0.7ポイント増)」「視野・判断(0.6ポイント増)」「現実・肯定(0.6ポイント増)」が、特に伸びを示した。

#### ■ 結果の分析・考察

「家庭学習のすすめ(ワークショップ)」や実際の3日間の生活をとおして、「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さ、計画を立て家庭学習に取り組んでいくことの必要性について考えながら、生活してきたため、「日常的行動」や、先を見通して、自分で計画を立てられる「視野・判断」が大きく伸びたと考える。



### 5 まとめ

#### ■ 成果

- 学習に対して「おもしろかった」「楽しかった」という声が聞かれるなど、学習への自信を持たせ、学習への意欲を促すことができた。
- 家庭学習する際には、目標や学習計画を立てて行うことにより、効率的に学習を進められることに気付かせることができた。

#### ■ 課題・今後の方向性

- 追跡調査を実施し、家庭学習時間の変化や読書の取組などについて、参加者の変容を検証するなど、青年の家と家庭との連携が必要である。
- 青少年教育施設の機能を生かした教育的支援を充実(基本的生活習慣の定着等を含む)させる必要がある。
- 運営協力者(学生ボランティア)の確保が大切である。